

名古屋大学模擬授業を実施しました

12月11日(土)、2年生希望者を対象に名古屋大学模擬授業を実施しました。昨年度は、新型コロナウイルス対策により名古屋大学構内で実施できなかったため本校で実施しましたが、今年度は名古屋大学構内で実施することができました。

午前は宇宙地球環境研究所 年代測定研究部の小田寛貴先生に『大学進学のため、高校時代に「どのように学ぶ」べきか』というテーマで、午後は大学院情報学研究科 心理・認知科学専攻の大平英樹先生(本校 S55.3 卒)に『私たちが動かす感情のメカニズム』というテーマで講義をしていただきました。生徒たちは皆、講義を熱心に受けていました。それぞれが進路、勉強方法などについて改めて考える契機となりました。また、実際に名古屋大学を見て、その広さや施設の充実度に驚いた生徒もいました。

<生徒の感想>

「小田寛貴先生の授業では、基礎が一番大事だと分かりました。以前からこのことは分かっていたのですが、先生の研究のお話を聞いて改めて大切だとわかりました。基礎と基礎を掛け合わせることで応用することができ、その基礎を高校生のうちに広く深く学習することで大学の勉強に活かしたり、応用することができると知りました。そのため、あまり興味のない教科もきっちりと深く勉強して定期テストを大事にしていきたいです。

大平英樹先生の授業では、日本人の行き過ぎた国民性、同調圧力が誹謗中傷に繋がっていて、「自粛警察」という言葉を知って驚きました。自分も同調圧力の影響を受けて、授業が終わった後の質問があっても全く手を挙げられませんでした。それを反省して自分の行動をコントロールしたいと思いました。勉強したことを活かして研究してその結果が認められると、世の中に知識が増えてそれを使ってまた誰かが研究して、またその結果が知識として蓄積されていくというサイクルに感動しました。また、同調圧力というものがあることを理解して、時には同調せずに行動したいと思いました。勉強は理系も文系も関係ないという考え方に納得しました。まずは、数学に自信がもてるようにこれから精進していきます。」

「初めて名古屋大学に行って、大学の規模の大きさや校舎のきれいさに圧倒されました。特に理系の学部は、施設や設備が多く充実している環境だなと思いました。

午前のお話では、私たちも化学で習った放射線同位体が実際にどのように使われているのかを知ることができました。放射線に関わる Sv の基準を決めるときの曖昧さには愕きました。午後のお話では、文学部で脳の研究をしていることに驚きました。私の想像していた心理学とは全然違っていました。医学部の方でも脳と心の関わりの研究をしているので意外なところで繋がりがあのだなと思いました。午前、午後両方のお話を聞いて一番印象に残ったことは、文理の区別についてです。今まで高校で文系理系に分かれて、大学では更に細分化するのだと思っていました。しかし、今回のお話を聞いて、大学での学習や研究は様々な分野の基礎知識や常識があるからこそ成り立っていて、その知識は文系、理系に関係なく、幅広くあるべきだということを学びました。私は特に国語が苦手な理系であることを言い訳に逃げてしまっている傾向があったので、どんな教科にも真摯に向き合って幅広い知識を身に付けていきたいと思いました。名古屋大学に初めて行きましたが、ものすごく広くて驚きました。図書館や講堂など、たくさんの設備があっという間、と思いました。食堂やカフェなども充実していて良かったです。サークルも楽しそうで、実際に自分の目で大学を見ることができて本当に良かったなあと思います。」

